

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
4月1日
第82号



ソメイヨシノ（バラ科）

薬用植物園の隣の山崎川は、名古屋屈指の桜の名所で、今、ソメイヨシノが見事に咲き誇っています。この花については、あまり多く語る必要はありませんね！この桜の出自、素性には様々な説が唱えられていますが、今、一番有力なのは、オオシマザクラとヤマザクラの交雑にエドヒガンを掛け合わせたとするもののようです。江戸後期に、江戸の染井（ソメイ）村で盛んに栽培されたことからこの名が付けられたようです。全国各地で、お花見と言えばこの桜というほど普及していますが、遺伝子解析で、その全てがクローンであることが判明したのは、今から25年ほど前の事です。薬用としては、樹皮から、生薬の桜皮（オウヒ）が得られ、西洋医学で鎮咳薬として使用されます。また、漢方薬では、某メーカーの十味敗毒湯エキス製剤に配合されています。ちなみに、桜餅の芳香は、葉に含まれるクマリン配糖体が、塩漬けすることで分解し、クマリンとなることに由来します。

シナレンギョウ（モクセイ科）

園内、資材倉庫の横に、鮮黄色の花を多数付け、株全体が黄色に染まっている姿が見られます。中国原産で各地に鑑賞用として植栽されている雌雄異株の落葉低木です。中国名は「金鐘花」。一般的に日本で「レンギョウ」として植栽されているのは、レンギョウ、シナレンギョウ、チョウセンレンギョウの3種ですが、このうち薬用となるのはレンギョウのみ。シナレンギョウはかつては薬用として利用されたこともありますが、現在の日本薬局方や中国薬典からは、基原植物からは削除されています。レンギョウの果実を原料として、生薬の連翹（れんぎょう）が得られ、清熱解毒薬として荊芥連翹湯、防風通聖散、十味敗毒湯、驅風解毒散などの処方に配合されます。レンギョウとシナレンギョウは、花では鑑別が困難ですが、幹を縦に切った時、レンギョウは中空、シナレンギョウは細かい梯子状の髄があるところから区別されます。